

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	厚岸町立太田中学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年8月17日(木)	研修参加人数	7人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度までの取組を踏まえた組織的・計画的な自殺予防教育の充実について ・ 日常の生徒の様子から、各種アンケート、調査結果等を踏まえた生徒のSOSを受け止め方や教育相談の在り方等に関する実践的な研修について ・ 校内の指導体制の確立及び校内組織の在り方に関する研修について ・ 命を大切にす指導に関する研修について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ほっと」、「心と身体のチェックリスト」及び「いじめアンケート」など様々なアンケート結果を有効に活用した組織的な対応の必要性を再認識した。 ・ 学校外の生徒の様子について情報共有できるよう保護者と緊密に連携を取ることの必要性を感じた。 		
研修等で使用した資料名	資料1 「子どもたちのSOSを受け止めるために」 資料2 「相談体制の確認リスト」 資料3 「児童生徒の自殺予防に係る取組について」 資料4 「健康観察・教育相談アンケート作成マニュアル」		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況（主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等）											
A 援助希求的 態度の 育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要(目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい人間関係の構築を目指し、学級活動の時間において、学級担任が、「ほっと」や「心と身体のチェックリスト」等の結果を活用し、相談しやすい人間関係の構築に向けて、必要なことを生徒に考えさせる活動を行った。 ・ あたたかい人間関係をつくるための必要なスキルの向上を目指し、学級活動の時間にピアサポートを位置付けるとともに、学級担任がスクールカウンセラーと連携しながら、他者との円滑なコミュニケーションの在り方への生徒の理解を深めることを目的とした体験的な活動を行った。 ○ 生徒の変容を促す工夫(授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など) <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ほっと」や「心と身体のチェックリスト」等のアンケート結果を活用し、児童生徒に対する必要な手立てや支援について、迅速かつ組織的に対応できるよう校内の組織体制を整備した。 ・ 生徒が、他者との円滑なコミュニケーションの在り方への理解を深められるようスクールカウンセラーとの連携、ピアサポートの実施、体験的な活動を年間指導計画に位置付けるなど、意図的・計画的な指導に留意した。 ・ 生徒が自分の思いや考えを本音で語ることができるよう、教育相談や授業を含む学校生活全体を通じて、思いや考えを表出させる場面を多く位置付けた。 ○ 生徒の変容(アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容) <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月と11月に実施した「ほっと」において、第1学年は、「相談」の項目が上昇するなど、相手と相談しやすい雰囲気が高まった。また、「仲間強化」の項目も上昇し、仲間づくりという観点において、徐々に生徒が感じている不安要素が解消されてきた。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・ ピアサポートを通して、今まで気付くことができなかつた自分の長所に気付けたことで、楽しく活動することができた。 											
	<div data-bbox="1002 1350 1444 1644" data-label="Image"> </div> <p>【体験的な活動を行う生徒の様子】</p> <div data-bbox="1007 1794 1449 1888" data-label="Table"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(略称)</th> <th>6月</th> <th>11月</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>悩みを相談する(相談)</td> <td>3.1</td> <td>3.5</td> <td>+0.4</td> </tr> <tr> <td>仲間強化</td> <td>49.9</td> <td>51.7</td> <td>+1.8</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>【第1学年の「ほっと」の結果】</p>	項目(略称)	6月	11月	増減	悩みを相談する(相談)	3.1	3.5	+0.4	仲間強化	49.9	51.7
項目(略称)	6月	11月	増減									
悩みを相談する(相談)	3.1	3.5	+0.4									
仲間強化	49.9	51.7	+1.8									

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
 - ・保健体育科の授業において、心身の不調に関わる対処の方法への生徒の理解を深めることを目指し、「ほっと」等を活用して生徒の心身の状況を分析するなど、教師が、生徒の実態を適切に把握し、自殺予防に向けた心の危機のサインを知る方法について生徒に考えさせる活動を行った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・生徒が日常の様々な場面において、自分の心身の状況を客観的に捉えさせ、生徒が自他の心身の状況に応じた具体的な対応を考えられるようにし、心身の不調を感じた際の対応について理解を深めた。
 - ・生徒が自殺予防の正しい知識を身に付けられるよう、環境や人間関係等と自殺との相互関係について考えさせ、自殺の原因や予防の仕方等について理解を深めた。
- 生徒の変容
 - ・6月と11月に実施した「ほっと」において、「関係維持」の項目が上昇するなど、相互理解の意識の向上が見られた。
 - ・夏季休業後と冬季休業前において、「心と身体のチェックリスト」における「悩みを話せる友人がない」の項目について、「悩みを話せる友人がない」と回答した生徒の割合が減少した。
 - ・夏季及び冬季休業期間中においても、綿密に家庭と連携を図り、家庭での生徒の様子を共有するなど、生徒の状況を継続的に把握できるようにした。
 - ・不登校傾向にある生徒及び不登校生徒に対し、オンラインで健康観察を実施したり、自宅からオンラインで授業に参加したりする機会を設定することにより、ICTを活用し、生徒が学校とのつながりを感じられる取組を工夫した。
- 生徒の感想
 - ・困ったことや悩んだことがあれば、自分の心身の状況を客観的に捉えた上で、文章だけではなくイラストなどを使って先生に伝えることで、自分の気持ちがしっかり伝わることに気付いた。

因子	6月	11月	増減
関係維持	48.8	51.5	+2.7
因子	夏季休業後	冬季休業前	増減
悩みを話せる友人がない	1.75	1.37	-3.8

【相互理解に関する「ほっと」の結果】

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
 - ・生徒が「楽観的に考え直す」、「将来に目を向ける」、「自分に置き換える」、「失敗を見つめ直す」などの考え方を身に付けることを目指し、各教科等横断的な学習を年間指導計画に位置付けるとともに、学級活動、学校行事、総合的な学習の時間の授業において、教師が、保健体育科で学習したストレスの対処方法を生徒に振り返らせたり、生徒自身にストレスだと感じていることについて考えさせたりする活動を継続的に行った。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・生徒がストレスを感じたときの適切な対処方法について理解を深められるよう、実際にストレスを感じる際の具体例を示し、その対処方法に関わる協働的な学びを通して、多様な考え方に気付かせるようにした。
- 生徒の変容
 - ・6月と11月に実施した「ほっと」において、「自己統制」の項目について、第1学年において、約1ポイント上昇し、「自律」の項目についても上昇した。
 - ・自分を律する自己統制の項目の数値が上昇するとともに、授業において、落ち着いて自分を冷静に振り返る生徒の様子が見られた。
 - ・学校生活においては、ストレスを感じた際、前向きに受け止めようとしていたり、自分なりの方法でストレスに対処したりしようとする姿が徐々に見られるようになった。
- 生徒の感想
 - ・ストレスを感じるがあった場合、物事を前向きに捉えて考えたり、行動したりすることができるようになった。



【ストレスの対処方法を振り返る様子】

因子	6月	11月	増減
自己統制	47.9	48.8	+0.9
項目（略称）	6月	11月	増減
目を向ける（自律）	3.0	3.3	+0.3
因子	夏季休業後	冬季休業前	増減
誰かに怒りをぶつけたい 気持ちが強くなった	3.0	3.3	+0.3

【ストレス対処に関する「ほっと」の結果】